

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2017 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
	- (事務局用)	道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなと」を起点とした、まちの回遊性・活性化の創出	八幡浜市
アイデア名 (注1) (公開)	ようこそ『まちの学校』へ ～生徒数100万人獲得プロジェクト～		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2017 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報

チーム名 (公開)	チームotto会		
チーム属性 (公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム	<input type="radio"/> 2. 学生によるチーム	<input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム
メンバー数 (公開)	7名		
代表者情報	氏名 (公開)	濱田 規史	

**(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2017\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2017 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin\_padit\_cog2017@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。

3. 公開条件について：

「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)

5. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、や知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

## 2. アイデアの説明（公開）

（1）アイデアの内容、（2）アイデアの論拠、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

### （1）アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれが、何を、どこで、いつ、どのように、する公共サービス（活動）なのか、これらの要素を入れて**内容そのもの**をわかりやすく示してください。**1 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

八幡浜港の観光拠点『八幡浜みなと』には、毎年100万人の来場者があるが、そのほとんどは、みなとでの短期滞在のみで、市内に還流することはない。また、市内には多くの観光資源が眠っているのに、市民はそれに気付いていない。そこで、市内中心部全体を、八幡浜市の「八」にちなんで8つの教室とそれを結ぶ廊下から構成されるバーチャルな『まちの学校』に見立てて、みなとを訪れる観光客を始め、市外から訪れる人に八幡浜市の良さをしってもらうとともに、市民も自分たちの街の魅力を一緒に学んでいく。

- ◎ 市立八幡浜総合病院では現在、『糖尿病を悪化させないまちづくり』と銘打って、糖尿病予備軍の方に、食事・運動等を絡めて医療指導を行っている。それをさらに進化させ、『まちの給食室』での糖尿病対策メニューの提供、温泉での湯治メニューの提供、ウォーキングコースの整備による運動療法の提供、空き店舗を活用したリハビリ教室（真網代くじら病院と連携）を行うなど、市外からのヘルスツーリズム客を呼び込む。・・・『まちの保健室』
- ◎ 市内に点在する古い建物や街並みを手軽に散策でき、歩いた歩数やボランティアガイドに案内してもらった回数をポイント化し、市内の商店で使える商品券に交換できるアプリを開発する。・・・『まちの郷土資料室』
- ◎ 市外の人を対象に、歩いた距離ではなく、市内に滞在した時間や移動距離をポイント化し、商品券や特産物と交換できるアプリを開発する。市内に滞在する時間を増やすために、各地区公民館単位でインスタ映えする風景、建造物等を発掘、ブラッシュアップし、アプリの観光案内に登録する。・・・『まちの運動場』
- ◎ 市内には、農業、工業、商業の教育に力を入れている高校がある。その高校で学ぶ高校生を対象に、農業、工業で作った製品を、商業の生徒が商店街で販売する店舗を開設する。・・・『まちの社会科実習室』
- ◎ 九州からフェリーに乗って、四国へサイクリングに来るサイクリストが、市内に宿泊しやすくなるよう、空き家を活用して自転車ごと宿泊できる専用の施設を整備する。また、隣町の伊方原子力発電所への長期出張者も使いやすい宿とし、八幡浜らしいおもてなしを行う。・・・『まちの休憩室』
- ◎ 市内の宿泊施設に泊まった客が、夕食や朝食に市内の新鮮な魚介類やB級グルメ『八幡浜ちゃんぽん』、八幡浜発祥の『塩パン』等を食べ歩きできるよう、飲食店と宿泊施設が連携した取り組みを行う。・・・『まちの給食室』
- ◎ ハンドメイドの愛好者を対象に、空き家や商店街の空き店舗を利用して、手作り品の販売やワークショップを定期的に開催する。・・・『まちの技術室』
- ◎ 上記記載の各教室メニューすべてに使えるアプリの情報から、市内に滞在する時間、訪問場所、利用者の情報等のビッグデータを分析し、市内に眠っている宝を発掘する。・・・『まちの情報処理室』
- ◎ 年間100万人が訪れる『八幡浜みなと』から市内の中心部へ、また、教室から教室へ歩いて散策することができる動線の整備と、道中の景色等ウォーキングを楽しめるようなアプリを開発する。また、歩行による移動が困難な高齢者等を対象に、「1～2人乗り自動運転車」の実証実験を行う。自動運転車においては、アプリと連動して、使用者の特性に合わせた情報提供を行う。・・・『まちの廊下』
- ◎ 以上の8教室+廊下に加え、今後も順次教室の種類を増やしていく。
- ◎ 次回開講予定、『まちの図書室』、『まちの音楽室』

## (2) アイデアの論拠（公開）

アイデアの論拠（なぜこのアイデアなのかの理由付け）について、それをサポートするデータ（統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの定性データ）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつ、**2 ページ以内**でご記入ください。データ類は出所を明らかにしてください。

### 【「八幡浜みなと」に関するデータ】

●八幡浜港に隣接する道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなと」の平成 28 年の来訪者は 1,035,500 人で平成 25 年のオープン以降 4 年連続 100 万人を超えている。（出典：愛媛県「観光客数とその消費額」）

●「八幡浜みなと」の来場者の属性等

居住地・・・市内 4 割、市外約 4 割、県外約 2 割

性別・・・女性約 6 割、男性約 4 割

年齢・・・20 歳代以下（11.8%） 30 歳代（13.3%） 40 歳代（17.4%） 50 歳代（18.7%）  
60 歳代以上（38.9%）

来訪回数・・・市内居住者（10 回以上…94.9%、3～9 回…3.7%、2 回…0.9%、初めて…0.5%）

南予地域居住者（10 回以上…58.6%、3～9 回…28.3%、2 回…7.1%、初めて…6.1%）

その他（10 回以上…21.8%、3～9 回…27.4%、2 回…13.2%、初めて…37.6%）

上記のように、来場者の半分以上（約 6 割）が市外からの客で、50 歳代以上が約 6 割を占めている。また、市内、市外共にリピーターがかなりの割合を占めている。（出典：みなと来場者アンケート（平成 29 年 9 月））

●「八幡浜みなと」までの交通手段は、自動車（市内 67.3%、南予 97.0%、その他 80.1%）がほとんどを占めるが、市内については、自転車・徒歩が 30.8%と多くなっている。（出典：同上）

●近隣自治体在住者以外の「八幡浜みなと」以外の観光等スポットの認知度・訪問歴は、みなと湯：43%/28.8%、黒い商店街：18.8%/21.2%、平家谷公園：39.1%/41.3%、日土小学校（近代モダニズム建築）：18.8%/10.6%、大島（離島）：18.8%/12.5%、川之石の町並み：20.3%/20.2%、浜之町の町並み：14.8%/14.4%、その他：14.1%/14.4%となっており、八幡浜市の観光施設における認知度/訪問歴とも低いことが分かる。（出典：同上）

### 【滞在状況に関するデータ】

●八幡浜港は九州との間に毎日 20 往復のフェリーが運航しており、平成 28 年の年間利用数（人+車両）は 654,401 人、この 10 年間をみると 70 万人前後で推移している。（出典：八幡浜市水産港湾課取りまとめ）

●八幡浜一大分間のフェリー利用者の利用目的は、観光 39.4%、出張・ビジネス 22.1%、帰省・知人訪問 23.9%、その他 11.2%、無回答 3.3%で、観光の目的地は愛媛県 99 人（内八幡浜市 5 人）、高知県 27 人、香川県、17 人、徳島県 11 人、中国地方 12 人、関西地方 2 人となっており、八幡浜市への観光利用は少ない。（出典：フェリー乗降者アンケート）

●県外からの滞在人口は、首都圏 12.7%、関西圏 30.8%、広島・岡山・香川 20.4%、大分 5.1%で、フェリー航路があるにも関わらず、九州からの滞在者が少ない（出典：RESAS：滞在人口分析）

●目的地検索の状況では、「八幡浜みなと」がもっとも多く、市内の宿泊施設、公共施設が続いており、他の観光施設は皆無である。（出典：RESAS：目的地分析）

●八幡浜市内の宿泊者は、首都圏 23.7%、関西圏 13.8%、県内 31.4%、その他 31.1%と、県内の宿泊者が多い。これは、県内他地域と比べて高い割合で、九州からの宿泊者は少ない。（出典：RESAS：宿泊者分析）

●八幡浜市の滞在人口率は、県内他地域と比べても全般的に低い状況である。また、滞在人口の推移では、昼間の状況は、休日の滞在人口が平日を大きく下回っている。これは、観光等を目的にした来訪者等が少ないこと及

び観光等で市外に流出する人口が多いものと推測される。(出典：RESAS：滞在人口分析)

●八幡浜市に滞在する県内市町別人口は、八幡浜市が1位で84%、松山市が2位で4%で、以下、近隣の市町が続く。松山市から南予市町への来訪者の割合は、大洲市7%、西予市6%、八幡浜市4%、宇和島市3%の順になっており、松山市からの来訪者数を伸ばす余地はあると言える。(出典：RESAS：滞在人口分析)

#### 【その他のデータ】

●八幡浜市の空き家総数は3,770戸(空家率19.5%)で県内11市の中で2番目に高い割合である。  
(出典：八幡浜市空家等対策計画／平成25年住宅・土地統計調査)

●市内中心部には4つの商店街があるが、空き店舗は、100店(空家率39.68%)存在している。  
(出典：八幡浜市商工観光課実地調査(H28))

●九州から八幡浜市への観光バスツアーの参加者は、8割が65歳以上で、ほぼすべての方が満足したという回答だったが、町並み散策等、歩く行程が多かったため、体力的にきつかったとの回答が多かった。  
(出典：八幡浜市観光バスツアー参加者アンケート(N=181人))

●バスツアーに加えてほしい施設として、風向明媚なところ、新しい散策場所、手作り体験ができるところ、という意見が多かった。(出典：同上)

●宿泊者アンケートによると、八幡浜市に宿泊する目的は、仕事36.2%、帰省・知人訪問30.5%、観光18.1%、その他15.2%で、宿泊日数は平均5.6泊(最大120泊)であった。仕事を目的として、滞在期間が長いのは、隣接する伊方原発の関係だと思われる。(出典：八幡浜市宿泊アンケート(N=105人))

●宿泊者の来訪手段は、自動車58.3%、JR34.0%、フェリー10.7%の順で、八幡浜みなつとの利用者と異なり、公共交通機関の割合が高いのが特徴である。(出典：同上)

●観光等で行先を決めるときに重視する点では、食事(62.7%)、自然や景観(57.8%)、歴史や文化(32.4%)、その土地ならではの体験(27.5%)が多数を占めている。(出典：同上)

●八幡浜市をイメージする観光資源は、市民では、みかん、魚、ちゃんぽんの順で高くなっているが、市外在住者では、魚とちゃんぽんの順位が入れ替わっている。(出典：みなつと来場者アンケート(平成29年9月))

#### 【まとめ】

●「八幡浜みなつと」を訪れる市外の客は約60万人で、高齢女性が多い。また、ほとんどが自動車に乗って来訪しており、ほかの観光施設の知名度が低いことから、市内に滞在する時間は短くなっている。

●大分とのフェリー航路は70万人の乗降客があるものの、九州からの来訪者、宿泊者は、ともに少ない。

●市外(県内)からの来訪者も、「八幡浜みなつと」以外の目的地がないと推測される。

●観光客が八幡浜市に求めているのは、みかん、魚、ちゃんぽんと言った食べ物が中心だが、ほかにも、風向明媚な風景や手作り体験できる場所など、いわゆる「コト消費」に対する需要も高い。

●八幡浜港やJR八幡浜駅から宿泊所まで移動する客も多いが、距離が離れている。また、観光客は高齢者が多いので、まちを散策する際には、移動手段が必要になる。

●市内には、多数の空き家・空き店舗があり、それらの活用が急務になっている。

### (3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法（制約がある場合にはその解決策を含む）、アイデアの**実現にいたるプロセスとマイルストーン**等、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2 ページ以内**でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

#### ■ 各種団体と役割分担

- ◎ チーム otto 会（全体調整）
- ◎ 市立八幡浜総合病院（『まちの保健室』担当）・・・現在取り組んでいる『糖尿病を悪化させないまちづくり』のブラッシュアップと、新たな湯治メニューの開発、飲食店に糖尿病対策レシピの提案
- ◎ 市内の飲食店（『まちの保健室』、『まちの給食室』担当）・・・市立病院から提案されるレシピをもとに、希望者に糖尿病対策食を提供する。また、市内に宿泊する観光客向けの特別な夕食と朝食を提供する。
- ◎ 八幡浜黒湯温泉『みなと湯』、『大正湯』（『まちの保健室』、『まちの休憩室』担当）・・・市立病院考案の湯治メニューを実行に移すとともに、積極的に利用を呼び掛ける。
- ◎ ボランティアガイド（『まちの郷土資料室』担当）・・・アプリに古い建物や街並みの情報を提供するとともに、アプリ利用者にいつでもガイドを提供できる体制を構築する。
- ◎ 各地区公民館（『まちの運動場』担当）・・・担当地区内で、インスタ映えする風景や建築物を、100 箇所以上発掘して写真に収め、位置情報と解説を加えてアプリに登録する。
- ◎ 川之石高校（『まちの社会科実習室』担当）・・・八幡浜特産の野菜、柑橘等を生産し、社会科実習室へ卸す。また、野菜については、八幡浜であまり栽培されていない品種の生産にも挑戦し、成果が出れば、情報を農家にフィードバックする。
- ◎ 八幡浜工業高校（『まちの社会科実習室』、『まちの技術室』担当）・・・まちの社会科実習室で販売できる工芸品や、体験メニューを開発する。また、まちの技術室向けのハンドメイド製品を開発し販売するとともに、ワークショップの講師となる。
- ◎ 八幡浜高校（『まちの社会科実習室』担当）・・・商業研究部を中心に、まちの社会科実習室における販売を担当する。また、友好都市から特産品を仕入れて販売するなど、まちの社会科実習室の経営にも積極的に関与する。
- ◎ 宿泊施設新規経営者（『まちの休憩室』担当）・・・空き家・空き店舗を活用して宿泊施設にリノベーションし、自転車ごと宿泊できる宿、長期出張者が心地よく過ごせる宿を作る。また、温泉・銭湯、飲食施設と連携した、まちぐるみでもてなすメニューを開発する。
- ◎ 八幡浜ちゃんぽん提供店（『まちの給食室』担当）・・・B 級グルメ「八幡浜ちゃんぽん」の提供と、市外への情報発信を積極的に行うとともに、まちの休憩室宿泊者やアプリ利用者対象のスペシャルメニューを作る。
- ◎ 家庭の手仕事職人（『まちの技術室』担当）・・・ハンドメイド製品を作って、まちの技術室やアプリで販売するとともに、愛好者を対象としたワークショップの講師となる。
- ◎ 各商店街振興組合（『まちの郷土資料室』、『まちの社会科実習室』、『まちの技術室』担当）・・・商店街の空き店舗で売却や賃貸が可能な物件を整理し、各教室の候補として情報提供する。また、アプリの特典である共通商品券を開発する。
- ◎ 八幡浜市役所（バックアップ）・・・それぞれの団体と情報交換を行い、困りごとがあれば助言を行う。また、『まちの廊下』となる道路の整備・活用（歩行者専用・片側通行の検討、自動運転車専用レーンの整備・休憩ベンチの整備）を行うとともに、それらを活用した社会実験を行う。

## ■ 当企画のキーデバイス

① 『まちの学校の学生証』・・・学校に必要なものと言えば、学生証である。市民だけでなく、市外から八幡浜市を訪れる人に、学生証として、スマホのアプリを配布する。

### ◎ 学生証アプリの機能

● 市外在住者であれば、八幡浜市に滞在した時間によってポイントが得られる。（市内を歩いた歩数、車で移動した時間・距離、自動運転車を利用した時間・距離によって、ポイントが異なる。買い物ポイントは付かない。）

● 市民であれば、街並みガイドを行ったり、ワークショップで講師をした場合などに、ポイントが得られる。

● たまったポイントで、特産品や商品券がもらえる。

● 市内にあるインスタ映えする景色、建築物の情報が地図上で検索できる。また、誰でも景色や建築物の情報を登録することができる。

● 八幡浜市の特産品の売買ができる。

● 歩いた歩数により、健康指導を受けられる。

● 自動運転車と連動して、観光案内や目的地までの運行を補助してくれる。

● 学生証アプリ利用者の移動に関する位置情報はビッグデータとして集計・分析が行われ、八幡浜市内に眠る宝の発掘につながる。

② 『まちの学校の四輪車』・・・教室と教室を結ぶ廊下の移動は、原則徒歩であるが、高齢者等の足の不自由な方や、障害のある方、歩くのが苦手な方には、自動運転車を用意する。

### ◎ 自動運転車の特徴

● 1人～2人乗りで、速度は、歩行よりやや早いスピードとする。

● 通行量の多い道路を避け、自動運転専用レーンを設置する。

● 学生証アプリと連動して、町並み案内やガイドが流れる。

● 運行に関するデータは、学生証アプリを通じて、データベースに送られる。

## ③ キーデバイスの調達方法

◎ 学生証アプリ・・・八幡浜工業高校や愛媛大学等と連携して開発する。開発資金は、クラウドファンディングで調達する。なおクラウドファンディングによる寄付は、八幡浜市役所と連携して、「ふるさと納税」扱いとする。

◎ 自動運転車・・・国内大手の自動車メーカー、またはベンチャー企業に対して、八幡浜市が実証実験の場を提供するという位置づけにして、メーカーに開発を依頼する。

## ■ 資金計画

◎ アプリのポイント還元・・・アプリ内の広告収入と各教室の担当からの寄付による。また、アプリを提示しての買い物に対しては、利用店舗から数パーセントの協力金を徴収する。

◎ その他各教室における初期投資・・・各教室の担当負担とする。

## ■ 進め方

◎ 基本的に、各教室の担当ごとに、それぞれのペースで事業に取り組むこととする。

◎ チーム otto 会は、定期的に連絡会議を開き、各教室の進行管理を行う。